

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	M.K	学部・学科	国際教養学部 国際教養学科
学年	4	派遣国	イタリア
派遣大学	ベネチア大学		
期間	21年 8月 31日～ 22年 7月 8日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ( )					
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ( )					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 ( 370—400 ) ユーロ *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	( 徒歩 ) で、約 ( 40 ) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	7万円	スーパー、レストランなど
学用品購入費	25ユーロ	教科書
交通費	円	
交際費	円	
その他	円	
<b>合計</b>	<b>7,3万円</b>	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

島から出たメストレ地区は治安があまりよくないと聞いた。

### 3. 医療について

#### (1) 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ( )		
加入期間	( 12 ) ヶ月間	保険料	( ) 円

現地の国/大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	( ) ヶ月間	保険料	( ) 円

### 4. 滞在都市についての情報

滞在都市/町 ( ベネチア ) 移動は基本徒歩か船。時間での販売で、メストレに出るバスは90分1.5ユーロ。船は90分7.5ユーロ。 橋が多く、重いトランクを1人でいくつも運ぶのは現実的ではないと思う。 観光客が多いので、基本的に島内だと英語が通じる。 ジェラートが美味しい。
--

## 【学業編】

### 1. 大学情報

大学	ベネチア大学	所在地	ベネチア
最寄空港	マルコ・ポーロ	空港からの距離	1：30 ほど
空港⇄大学	(バス、徒歩または船) * 移動手段		
学生数	21000	留学生数	30 くらい
学部	Department of economic Department of philosophy and cultural heritage Department of management Department of environment sciences, informatics and statistics Department of molecular science and nano systems Department of Asian and North Africa studies Department of humanities Department of linguistics and comparative cultural studies  *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	特に定まったものはなし  *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9 )月～(1 )月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	English	自由会話		自由会話	
午後			Italian		Italian

② (2 )月～(7 )月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		自由会話		自由会話	
午後			自由会話		

### 3. 履修内容

科目（和訳）	英語		
履修期間	前期	単位数	6
授業内容／形態	対面、オンライン選択可能 講義形式		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目（和訳）	イタリア語		
履修期間	前期	単位数	6
授業内容／形態	少人数で会話を学ぶものと、大人数で文法などを学ぶものの 2sh 類があった。		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目（和訳）	自由会話		
履修期間	通年	単位数	
授業内容／形態	インターンシップの一環で、日本語選択者の自由会話の授業に参加し、学生とその日のテーマに沿って会話したり、議論したりする。		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

## 【総括】

(1) 全体的な感想 \*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

想定していたよりも精神的な負担が少なかったように思う。一緒に渡航していた人とあらかじめ連絡を取っていたのも幸いした。渡航前の準備が一番追い込まれた。行ってしまえばバディも手伝ってくれるし、友達も頼りにできるし、日本人の教授もおり、また英語もかなり通じるので、泣くようなことはなかった。言語の面では心配しなくていいように思う。滞在許可証をもらいに行った警察署ではあまり通じない人もいたが、気さくな人だったし英語と少し似ていることもあって向こうの理解も日本人よりスムーズで困るようなことはなかった。

日本人の留学者が多く、イタリア語のクラスでも一番多かった。西の方などさまざまな大学から人が集まっており、刺激になった。

観光地というだけあって、物価が高いと感じたが、それでも農作物は安かったように思う。チーズやプロシュートの種類も豊富で、選ぶのが楽しかった。実家暮らしで自分で料理、洗濯、掃除をする経験が全くなかったが、これをきっかけに始められた。

現地のイタリア人も、日本人と比べて遥かに英語力があって自分はまだまだだと突きつけられるとともに励みにもなった。

英語の講義では積極的に手を挙げる生徒が多く、圧倒された。自由会話の授業に参加していても感じたが、大声で自分の意見を言ったり発表することにそれほど抵抗がない人が多く、ドラマで見た光景は現実のものだったのだと感慨深くなった。自愉快の講義に参加している日本語選択者は全員アニメや漫画が好きなのかと思っていて、確かに大多数を占めているように思えたが、一部には日本固有の伝統ある文化が好きであったり、日本のファッションが好きと言っている人もいて、歴史も豊かでファッションの発信地でもあるイタリアの人にそうしてもらえることは嬉しいしこ光栄だと感じた。友達 100 人とはいかなかったが、インスタグラムや LINE でまだ話すような友達ができたとし、イタリアに渡航できたことは私にとっていい経験であり、強みとして今後活かせるようにしていきたい。

(2) 今後の展望 \*この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

2級を過去に取っていたので、帰国後すぐに英検の準1級を受験し無事取得できた。今年中に、TOEICも受験して、なるべく高い点数を取りたいと考えている。ひとまず、単位が足りていないのでそれを補いながら就活を進めるが、少しでも英語を活かして、周りからも刺激を受けられるような環境に身を置きたいと考えている。海外で就職できればそれがベストだが、ビジネスを英語でできるほど英語力もない上にビジネスについてはまるで無知なため、日本でそれを学びつつ、海外に駐在できるようなチャンスが来るような会社に就職できるようにしたい。それが難しいようならせめてお金をためて、海外に行き、異文化に少しでも触れられるような環境を自分の周りに用意したいと思う。

また、せっかく1人で家事がなんとか形にはできるようになってきたので、そのまま続けて、趣味と言えるレベルにまで到達させたいと考えている。まだ自立したとは到底言えないが、その一助にしたい。

(3) 後輩へのアドバイス \*留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400字以上)

事前準備の一言に尽きると思う。一番精神が追い込まれたのが渡航前の書類を揃える段階だった。ワクチン2回接種、寮、アパートの手配、ビザの取得、大学への登録などしなければならぬことは目白押しで戸惑うことも多かった。私が乗り越えられたのは相談できる人がいたからだと思っているので、不安な人で一緒に渡航する人がいる人は早い段階でコンタクトを取るべきだと思う。渡航してからも話し合えるし、情報も共有できる。

ベネチア大学の incoming mobility は場合によって返事がかなり遅いため、やきもきさせられるが、急ぎのメールだと主張したものを何度も送ることにより返事をもらえた。

寮決めも早い段階から始めた方がよい。Housing office の返事はかなり遅いし、人気の寮はすぐに埋まってしまうためである。私の住んでいた寮はあまりお勧めしない。意見は聞き入れてもらえない上、その上の組織にメールで談判して寮から追い出された生徒もいる。両艦の人柄もあまり優しい、朗らか、穏やかというイメージはない。自分でアパートを借りていた留学生はかなり自由そうだったので、そちらもいいのかもわからない。